

令和二年度 安全功労者・消防功労者 総務大臣表彰式



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
題字 井 戸 知 事

訓練で
確かな信頼
積み重ね



代表受領 猪名川町防火協会会長 住野敦浩氏

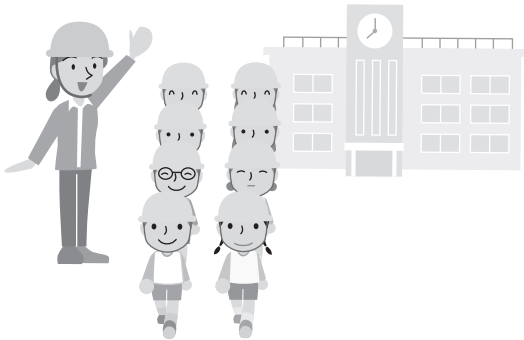
令和二年八月四日（火）、
総務省消防庁地下二階講堂に
て、令和二年度安全功労者・
消防功労者総務大臣表彰式が
高市総務大臣の出席のもと、
執り行われました。
表彰式では、高市総務大臣
から式辞、表彰状授与が行わ
れました。
県下の受賞者は下記のとおり
です。（敬称略）

- 安全功労
団体の部
神戸市
井吹台防災福祉コミュニ
ティ
姫路市
城陽校区庄田支部婦人防
火クラブ
個人の部
三木防火協会
前会長 坂井 幸嗣
猪名川町防火協会
会長 住野 敦浩

消 防 関 係 総 務 大 臣 表 彰 式 総 務 省 消 防 庁



消防関係総務大臣表彰集合写真（後列向かって右から5人目が坂井前会長、4人目が住野会長）



兵庫県受章団体
天満婦人防火クラブ

七月一日の「国民安全の
日」に合わせ毎年行われる、
安全功労者内閣総理大臣表彰
において、今年度は兵庫県か
ら天満婦人防火クラブ（姫路
市）が団体表彰を受章しまし
た。
兵庫県における本団体表彰
の受章は、平成二六年度以来
です。

令和 2 年度 安全功労者 内閣総理大臣表彰

令和二年 春の叙勲（消防関係）14名が受章

令和元年春の叙勲が四月二十九日に発令されました。叙勲の受章者（消防関係）は、全国で六一九名、うち兵庫県では、元消防吏員・元消防団員合わせて一四名が叙勲の栄に浴されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、幾多の災害に對して、率先垂範して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。また、消防力の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されたこと等、これまでの抜群の功績により、その榮譽に輝かれました。今回の叙勲の伝達式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となりました。

なお、全国の消防関係受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。

〈全国消防関係受章者数〉

瑞宝中綬章	二名
瑞宝小綬章	三三名
旭日双光章	四名
瑞宝双光章	八四名
瑞宝単光章	四九六名
計	六一九名

兵庫県下受章者（消防関係）

◎瑞宝双光章	
元尼崎市消防団	島田 幸司
元洲本市消防団	高田 光雄



元稲美町消防団	丸山 勝正
◎瑞宝単光章	
元神戸市中央消防団	平井 俊之
元神戸市東灘消防団	寺脇 勝彦
元姫路市網干消防団	前田 好昭
元姫路市姫路西消防団	福島 邦明
元西宮市消防団	谷野 義昭
元西宮市消防団	吉田 和夫
元宝塚市消防団	尾山 重治
元宝塚市消防団	平井 公雄
元高砂市消防団	西村 清隆
元川西市消防団	松尾 均

勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。今回の叙勲の伝達式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となりました。

受章者は、全国で瑞宝双光章三二七名、瑞宝単光章二九三名、計六二〇名、うち兵庫県関係では、二二名の元消防職員の方々が受章されました。

兵庫県下受章者（消防功労）

◎瑞宝双光章	
元神戸市消防監	三木 淳
元姫路市消防監	雲丹亀幸三
元姫路市消防監	梶原 久義
元姫路市消防監	櫻井 臣義
元加古川市消防監	友定 正博
元加古川市消防監	山崎由紀浩

第三四回 危険業務従事者叙勲が 令和二年四月二十九日に 発令

元川西市消防監	西井 一成
元小野市消防司令長	友定 芳継
元三木市消防司令長	森本 英樹
元西はりま消防組合消防監	桑垣 繁伸
元西はりま消防組合消防監	玉田 龍彦
元西はりま消防組合消防監	新田 伸二
◎瑞宝単光章	
元神戸市消防監	伊藤 芳弘
元神戸市消防司令長	井上 隆之
元神戸市消防司令長	正井 潔
元尼崎市消防司令長	瀧 謙一郎
元西宮市消防司令長	下野 裕生
元西宮市消防司令長	西口 昌利
元豊岡市消防司令	松岡 洋三
元篠山市消防司令	長澤 隆雄
元北はりま消防組合消防司令長	爲廣 高志
元南但広域行政事務組合消防司令	足立 修

5年に一度の大調査「国勢調査」を実施します。

日本国内に住むすべての人と世帯を対象とした5年に一度の大調査、「国勢調査」を実施します。国勢調査の結果から得られる人口は、我が国の人口の基本となる法定人口として、選挙区の区割りや地方交付税の算定の基準などに利用されます。また、国や地方公共団体の社会福祉、雇用、生活環境の整備、災害対策などをはじめとした、あらゆる施策の

基礎データとして利用されます。民間企業等においても、様々な分野で幅広く活用されています。

回答はぜひ、かんたん便利なインターネットで！スマホやパソコンからお願いします。

令和2年国勢調査の回答は、インターネットがとても便利です。

スマートフォンでも回答できます。16問で所要時間は約10分

回答期間 9月14日（月）～10月7日（水）

調査員が配布するID、アクセスキーでログインしてください。

国勢調査オンライン

検索

e-kokusei.go.jp

なお、一部の地域では、調査員による調査票の回収も行われます。

★ 調査員はマスクを必ず着用し、新型コロナウイルス感染症対策を行っておりますが、世帯の皆様と接触しないインターネット回答へのご協力をお願いします。

日本に住む全世帯参加の国勢調査はじまります。

Let's Join!!
#みんなの国勢調査

インターネット調査期間
9/14(月)～10/7(水)

調査票(紙)での回答期間
10/1(木)～10/7(水)

国勢調査2020
https://www.kokusei2020.go.jp/

国勢調査2020

総務省統計局・都道府県・市区町村



熱中症予防のために



「熱中症」とは、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態のことを言います。症状としては、めまい、吐き気、倦怠感などで、重症になると意識障害を発生させるなど、命に関わる病気です。室外だけでなく、室内においても環境条件や体調によって熱中症になる

場合もありますので、注意が必要です。

熱中症はこまめに水分を補給したり、暑さをさけたりするなど適切な予防を行うことで避けることができます。

今年は新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの装着などからなる「新しい生活様式」が推進されています。しかし、気温の高

い日が続く中、マスクをつけたままの活動は熱中症の危険が高まってしまう。屋外で周囲の人と十分な距離が保たれている場合はマスクを外すなど、感染症対策と熱中症予防を両立させていくため、厚生労働省において予防啓発・注意喚起のリーフレットが作成されましたので是非参考にいただき、元気に夏を乗り切りましょう！

厚生労働省ホームページ

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>



熱中症予防 × コロナ感染防止で「新しい生活様式」を健康に！

「新しい生活様式」とは：新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗いの実施や「3密（密集、密接、密閉）」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと。

注意 マスク着用により、熱中症のリスクが高まります

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなり、気づかぬうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。

熱中症を防ぐためにマスクをはずしましょう

ウイルス感染対策は忘れずに！



屋外で人と2m以上（十分な距離）離れている時

（マスク着用時は）……
激しい運動は避けましょう
のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう
気温・湿度が高い時は特に注意しましょう



新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.env.go.jp/>



暑さを避けましょう

- ・涼しい服装、日傘や帽子
- ・少しでも体調が悪くなら、涼しい場所へ移動
- ・涼しい室内に入れないければ、外でも日陰へ



のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう

- ・1日あたり1.2L(24)を目安に
- ・1時間ごとに入浴前後や起床後もコップ1杯 必ず水分補給を
- ・ペットボトル 500mL 2.5本 コップ約6杯
- ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに

暑さに備えた体づくりと日頃から体調管理をしましょう

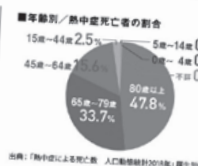
- ・暑さに備え、暑くなり始めの時期から、無理のない範囲で適度に運動（「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度）
- ・水分補給は忘れずに！
- ・毎朝など、定時の体温測定と健康チェック
- ・体調が悪い時は、無理せず自宅で静養



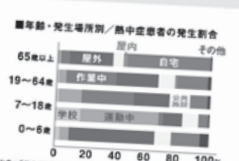
知っておきたい 熱中症に関する大切なこと



熱中症による死亡者の数は真夏日(30℃)から増加
35℃を超える日は特に注意！
運動は原則中止。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動してください。



熱中症による死亡者の約8割が高齢者
約半数が80歳以上ですが、若い世代も注意が必要です。



高齢者の熱中症は半数以上が自宅で発生
高齢者は自宅を涼しく、若い世代は屋外での作業中、運動中に注意が必要です。

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。
周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。

七月一日(金)午後六時頃、福崎町西田原在住の男性(九四)の所在がわからなくなり、男性の地元である辻川分団の消防団員も捜索に加勢しました。当日は強い雨の中、捜索となりましたが、自宅から約二キロメートル離れた山中で消防団員が男性を発見し無事保護しました。

この事案を受け、七月二八日(火)福崎警察署より辻川分団へ感謝状が贈呈されました。

贈呈式には消防団幹部の他、辻川分団を代表し、分団長と発見者である二名の消防団員が出席し、警察署長より感謝状を受け取りました。



福崎町消防団

福崎町消防団辻川分団が 警察署より感謝状を贈呈されました！

より辻川分団へ感謝状が贈呈されました。

贈呈式には消防団幹部の他、辻川分団を代表し、分団長と発見者である二名の消防団員が出席し、警察署長より感謝状を受け取りました。

われら若手消防団員

～機動消防団員として～



佐用町消防団
南光第2機動分団
加納 弘基

私は、平成二八年度に佐用町役場に入庁し、現在総務課 総務人事室に所属しています。

役場では、平日の緊急時に備えて多くの若手職員が消防団に所属しています。

私が所属する機動分団では各月に消防車両点検等を行い、定期的に消防署の方々から訓練を受け、地域の防災に努めています。

入団のきっかけは、同じ職場で消防団として活躍する先輩職員の方から緊急時のお話を聞き、地域における安心・安全の必要性を実感し、少しでも力になりたいと思い入団を決めました。また、町の人口も減少していることから、若手団員が増えることによって、消防活動に活気があると感じました。

実際に火災現場へ向かった経験も少なく先輩方と比べると知識も劣っていますが、若手らしく元気に、そして訓練を重ね、住民の方々が安心して暮らせる町づくりに貢献したいです。

がんばってます、 女性消防団員

『女性も頑張っています!!住みたいまち・西宮』

西宮市消防団

西宮市は、兵庫県の南東部に位置しており、山・川・海といった自然環境に恵まれながら交通の便も非常に良く、関西では「住みたいまち・西宮」として、高く評価されています。阪神甲子園球場や阪急西宮ガーデンズなどもあり、西宮市以外の人も多く訪れています。

そのような街で、私たち女性消防団員は、男性消防団員と同じように火災出動しますし、消火訓練や自主防災会への指導などを地域の実情に応じて行っております。平成三〇年には西宮市内の消防団操法大会に出場した女性団員もいます。

災害現場では、「女性だからこそ」できることもたくさんあります。昨年の女性消防団活性化大会で紹介されていた、避難所でのお手伝いや地域の祭りを利用した救急講習などは、非常に興味があります。

しかし、西宮市の女性消防団員の歴史は浅く、平成二五年に西宮市内で初めて五名が入団し、令和二年四月一日現在、八名の在籍とやや少ないのが現状です。女性でも消防団員になれるということを知らない人もたくさんいるため、もっと活動をアピールしていく必要があるのかなと思います。

「住みたいまち・西宮」の安全・安心を火災などの災害から守るため、きめ細かな視点を生かした活動ができる女性消防団員の活躍の場が広がるようにしていきたいと思っています。



男性消防団員と共に出場した「西宮市消防団操法大会」

わが町の団長さん

「安全・安心の守り神」

姫路市飾磨消防団

安原 嘉男



住・商・工のバランスがとれた生活密着型のまちとしての側面を備えた地域が、飾磨消防団が管轄するエリアです。

現在、五三八名の団員の先頭に立つ安原団長は、昭和六〇年に入団以降、昼夜をわかつた郷土愛をもって地域の安全・安心に尽力され、この度、第八代目団長に就任されました。

野田川の河口に開けた姫路港は、かつて飾磨津と呼ばれ、江戸時代には姫路藩の重要港として発展し、明治初期には、日本で最初に「舗装」という概念で作られた産業道路「銀の馬車道」の発着点でもありました。

また、地域を挙げて行われる祭りが盛んで、特に松原八幡神社の秋の例大祭は「灘のけんか祭」として海外にも名を知られるなど、本地域は伝統に育まれたコミュニティが脈々と引き継がれています。歴史的な港まちとしての側面と、古くから人口の集積と道路等の都市施設が整い、



「家庭を大事にし
楽しい消防団活動を
目指して」

西脇市消防団

藤原 久和



西脇市は兵庫県のほぼ中央部、東経一三五度と北緯三五度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置しています。

中国山地の東南端が播磨平野に接する地点にあり、西光寺山(標高七二・九メートル)を最高峰に標高二〇〇、六〇〇メートルの山地や丘陵に囲まれています。

また、中央部を県下最長の加古川が流れ、市域南部で杉原川、野間川と合流しており、これらの河川沿いに開けた平野部に集落や農地が形成されています。

西脇市消防団は七分団五六部から構成されており、団員数は九〇七名です。

令和二年四月に西脇市消防団長に就任された藤原久和団長を紹介いたします。

藤原団長は、昭和六一年四月一日に西脇市消防団に入団され、平成二二年四月一日に西脇市消防団分団長、平成二六年四月一日に西脇市消防団副団長、令和二年四月一日に西脇市消防団団長に就任され

ました。

団長は、消防団活動では何事にも率先し時には、厳しい言葉もかけられますが、人の和を大事にしておられ、団員等への気配りも細やかで、周囲の方からは厚い信頼を寄せられておられます。

農業に従事されており、農作物は「環境にやさしい、安心・安全な本物」を作りたいと考えておられます。これは、消防団活動においても同じで、「安心・安全な本物」の精神で取り組んでおられ、市民の皆さんの安心・安全の信頼に応えられるよう日々努力されています。

ほかにも教育委員や高校の同窓会長等で地域に貢献され、西脇市において必要不可欠な人材です。

就任して間もない四月に訓示で、「諸先輩方の築いてこられた輝かしい西脇市消防団の伝統と実績を引き継ぎ、団員一丸となって、市民生活の安全確保のために家庭を大事にし楽しく消防団活動をしていきたい」と団員に力強く語りかけておられました。

これからも西脇市消防団を牽引し、市民の生命・身体・財産を守るリーダーとして、より一層市民から信頼される消防団へと導びかれることを期待されております。



「フットワークの良い
消防団」

加東市消防団

井上 正義



加東市は兵庫県の中央部・播磨地方の東側に位置する人口約四万人の内陸都市です。旧加東郡の社町、滝野町、東条町が、平成一八年三月二〇日に合併し、加東市が誕生しました。

加東市消防団は、団長以下、副団長四人、小隊長一二人、七六の分団で構成されており、平成三〇年度には、機能別分団として、平日の勤務時間内に発生した火災への出動や消防団行事等での広報活動を目的とした市役所分団を結成しました。

また、昨年度は、消防団幹部が火災現場や捜索活動で指揮を執る際の情報収集を目的として、無人航空機(ドローン)を導入しました。この加東市消防団の先頭に立ち、指揮を執るのが井上団長です。

井上団長は、旧滝野町で平成六年度に入団され、合併後は平成一八年度に小隊長、平成二二年度には副団長に、そして、この令和二年度から団長に就任されました。

職業は、歯科技工士として自営業を営まれており、歯医者さんから、入れ歯やクラウンといった被せ物の型を預かり、歯を作るといった仕事を

されておられます。

また、趣味でゴルフをされており、日々の消防活動の傍ら、消防団の幹部、OBの方々と得意先の先生と趣味のゴルフを楽しんでおられる朗らかな団長です。

しかし、いざ火災や水害、近年増えつつある認知症の方などの捜索活動が発生した場合は、迅速に先頭に立って陣頭指揮を執られ、団員をまとめあげておられます。

消防団活動では、消防防災体制の充実強化と災害に強いまちづくりを推し進めるために、秋から冬にかけて行っている小隊別訓練に力を入れておられ、「市民の方々が安全安心で住みよいまちづくりに努めたい」と強く思っておられます。

「多可町消防団の
志を継承」

多可町消防団

山本 和樹



多可町は、兵庫県の中央部、北播磨地域の最北に位置し、平成一七年一月一日に多可郡旧中町、旧加美町、旧八千代町の三町の合併により新しく発足しました。

面積は約一八五平方キロメートル、人口は約二万人で、町面積の約八割を山林が占める自然豊かな地域で、日本一の酒造好適米「山田錦」、日

本一の手すき和紙「杉原紙」、この地から提唱して制定された国民の祝日「敬老の日」と全国的にも珍しい三つの発祥が集まる町となっています。

多可町消防団は、本部及び一二の分団から構成され、団員数約九百人で町民の安心・安全を守るため日々活動しています。

山本団長は、平成二二年に旧八千代町消防団に入団され、分団長、副団長を歴任後、令和二年四月一日、消防団長に就任されました。

団長就任後は、「自分たちの町は自分たちで守る」という郷土愛護の精神を基に、平日の団員招集が厳しさを増す近年、特に「常備消防との連携強化」、「昼間消防団員数の確保」、「自主防災組織の強化」をスローガンに、時代の流れに沿った消防団活動を推奨するとともに、旧町境界での災害を想定した連携強化訓練など、地域住民の負託に応えるため日々邁進されています。

また、体制の異なる各消防団の合併による不均衡の是正、団員の処遇改善や、現場の最前線に立つ団員のために活動しやすい環境を作るべく、行政や地域に熱意を持って働きかけられています。

これからは、地域住民が安心して暮らせる町づくりに益々活躍されることを期待しています。





『地域の活動を通じ地域の方と交流を深め、防火防災活動につなげます』

神戸市西消防団伊川谷支団

伊川谷町は神戸市西区の南東部に位置し、自然豊かな農業振興地域から鉄工団地・神戸ハイテクパーク・大学専門学校等、さらに老人福祉施設も多数ある多様な特徴がある町です。

その中を流れる伊川は明石川の支流で、全長一二キロメートル程の小さな河川で、伊川谷地域を縦断し、里山、田園地帯さらには市街地へと流域を変え、その表情が豊かに変化する里川ですが、台風や梅雨などの大雨時にはその様子は一変し、氾濫の危険があります。防災指令が発令された際には昼夜を問わず河川水位の監視やパトロール等の他、避難に関する広報活動を行います。

間、操法の訓練を重点的にしています。

神戸市の大会では兵庫県消防操法大会と同じ操法で標的を倒すまでの時間、土気、規律、安全、確実、迅速な技術について競います。

神戸市西区の大会では一班五人編成（給水の班は六人）が三班、指揮者を入れて総勢一七名でポンプ三台、ホース九本を結合し、標的を倒すまでのタイムを競う、実践的な競技大会です。

○年末年始消防特別警戒

詰所を開設し一二月二九日から三二日までの間、市民のみなさんに安心して新年を迎えていただけるようパトロール及び警戒を実施します。

伊川谷支団の構成

山田支団長率いる伊川谷支団は八分団一七班による二三名で構成されています。

消防団装備は積載車一七台、小型動力ポンプ一七台が配備されています。

主な行事イベント

○消防団ポンプ操法大会

神戸市小型ポンプ操法大会と神戸市西区小型ポンプ操法大会が交互に隔年開催されており、毎年八月下旬ごろから大会本番までのおよそ二ヶ月



ポンプ操法大会の訓練の様子

○文化財防火デー、太山寺にて消火訓練

平成三十一年一月二六日の文化財防火デーに、神戸市内唯一の国宝建造物を有する太山寺にて、住職・地域住民・消防署・消防団が連携をとり消火訓練を行いました。

国宝である太山寺を火災から守るという防災意識の向上を図ります。

○伊川リバーフェスタ

例年八月第一土曜日に伊川ふるさと区民広場にて「川に親しみ川と遊ぶうー」というテーマの、川まつりに参加しています。

夢の架け橋（一斉放水）で日頃の訓練成果を披露し消防団活動に理解を深めてもらい、暑さ対策と防塵のために会場内の散水、会場警備等を行い、地域の交流の場づくりに取り組んでいます。（令和二年度は新型コロナウイルスの影響のため中止）

○防災福祉コミュニティ

各地域の防災福祉コミュニティへ参加をし、地域の活動を通じ地域の方と交流を深め、防火防災活動の啓発につなげていきます。



太山寺での消火訓練の様子

『減災・防災意識の高いまちづくり』を目指して

市川町消防団

市川町は兵庫県のほぼ中央に位置し、人口約一万一千人、面積八二・六七平方メートルのハート型をした町です。町は周囲を播磨富士とも称される笠形山をはじめとした山々に囲まれ、中央部には町名の由来でもある清流市川が南北に流れており、四季折々の豊かな自然が楽しめます。

市川町消防団は昭和三〇年の結成以来、伝統を重んじています。

○応急手当講習会（市民救命士講習）

伊川谷支団では応急手当普及員（救急インストラクター）資格の取得を推奨しており、中学、高校等へ市民救命士講習会の講師としての参加を積極的に行っています。

神戸市西消防団伊川谷支団は今後も地域の活動を通じ、地域の方々との交流を深め、地域の安全・安心のため活動していきます。



伊川リバーフェスタでの夢の架け橋（一斉放水）

また時代の移り変わりとともに変革を重ね、地域住民の尊い生命と貴重な財産を守るために日夜活動を行っています。

現在は団本部と二六分団で組織され、令和二年四月一日現在の団員数は四九三名です。

市川町消防団では毎年目標を設定して活動を行っています。

令和二年度の活動目標は「減災・防災意識の高いまちづくり」です。

市川町の近くには岡山県東部から兵庫県南東部に至る活断層帯である山崎断層帯があります。また、近年では所謂ゲリラ豪雨と呼ばれる突発的な局地的大雨が全国各地で発生していますが、市川町でも過去に局地的大雨の影響で河川が氾濫し、人命が危険にさらされるような事態も発生しています。

火災のみならず地震や水害等のいつ発生するとも分からない災害に対して、毎月定期的に機械器具の操作訓練と点検を実施して災害現場での行動規範や機械器具の基本操作の習熟に努めると共に、出水期前には土のう作成方法や各



水防訓練

種水防工法を習得する水防訓練を実施しています。

また、地域住民や自主防災組織と連携して消火栓や消火器の実演を取り入れた初期消火訓練や地震及び水害の発生を想定した避難訓練を実施し、地域住民の皆さんと共に防災意識を高め、防災力の向上に向けた活動に取り組んでいます。

ただ、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のために従来とは異なる活動方法が求められました。活動時の感染に細心の注意を払い、マスクの着用及び手洗いや消毒の徹底を促し、活動自体も三密を避



地域住民との初期消火訓練



放水訓練

編集後記

「例年とは違う夏」と言われるこの夏、厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では四面に、福崎町消防団辻川分団についての特集記事に掲載しております。また最近では、香美町消防団元団長の兵庫県のじぎく賞の受賞もあり、様々な場面で活躍されている消防団員の方々に益々頭が下がる思いです。

また、今月も紙面作成にあたり各地区から多数の寄稿をいただきました。誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスや熱中症をはじめ、大雨・台風など気がかりなことが重なる季節となりましたが、災害への備え・体調管理にお気をつけください。

